

↓おはなしのタイトルをわくの中にかこう↓



「のろいのバケツをたいじ!  
ジャックとビビと長老の  
ぼうけん物語」



作者 Cグループ しゅうえい/たいが/かいと/かずき/つぐみ

## ぶたいしょうかいシート

●どこの国?

小人の国

●いつの時代?

けんせい

●どんなところ?

自せん、緑にかまぬるしずかなところ

●キーアイテムは Xが死ぬのろいのバケツ として使います。

# キャラクターしょうかいシート



●役どころ (○をつけよう)

主人公 / わき役

主人公とのかんけいは?  
父 / 母 / 兄弟 / その他 ( )

●なまえ

シヤッ?

●ねんれい

10才

●どんな人?

やさしいたんか

# キャラクターしょうかいシート



●役どころ (○をつけよう)

主人公 / わき役

主人公とのかんけいは?  
父 / 母 / 兄弟 / その他 (○)

●なまえ

七七

●ねんれい

10

●どんな人?

長老のむすめ  
かしこい

# キャラクターしょうかいシート



●役どころ (○をつけよう)

主人公 / わき役

主人公とのかんけいは?  
父 / 母 / 兄弟 / その他 ( )

●なまえ

長老

●ねんれい

70才

●どんな人?

村をしまってる人  
おっちゃんこちゃん

①



あるところに、のろいのバケツがある小さな小さな村がありました。のろいのバケツのせいで人々は死んでいきました。そのバケツをけすには人間界にある強力な花からとれる花ふんが必要でした。その花ふんを取りに行くためにまだ生き残っていた長老とその娘ビビ、その友達のジャックが行きました。長「よし行くぞ」ビ「そんなにはりきらなくていいから」長「みんな気をつけるんじゃぞ。わかったら行くぞー」と言って、大きな川の所まで来ました。長「これ、どうやってわたろうか？」ジャ「こんな時のために鳥の羽でパラシュートを作って持ってきたよ」長「おおそれはすごい。でもどうやって上に行くの？」ジャ「このあたりは風がすごく強いからだいじょうぶ。」長「そりゃよかった、では行こう。わーすごい飛んだ飛んだー」ビ「そんないはしゃがないで」長「ごめんなさい」

②



そして、3人は人間界に着きました。3人は強力な花ふんを出す花をさがしに行きました。ジャ「あれ、もうすぐそこにあるよ」ビ「でも、とれそうにないわ」ジャ「長老、あそこのぼうで取ってよ」長「でも、わしでもとどきそうにないのう。」ジャ「なら、みんな肩車をしてその上に長老がのれば ぼうがとどくよ」ということで、みんなで肩車をしました。

③



長老が ぼうで、花をとろうとしていると、長「あ！巨大なねずみだ」なんと、そのねずみが長老をくわえて食べてしまいました。こうなったらもうお花どころではありません。ジャックとビビはこわくて声も出ず、とっさににげ出しました。しばらくするとジャックとビビがその場に行ってみるとねずみはいませんでした、かわりに長老のしただいがありました。ビビが泣きました。ジャ「こうしてはいられない。早くあの花を取って帰らないと。長老のためにも。」ビ「そうね」そして二人は花をとり人間界から出発しました。ジャ「さあ、もうひとふんばり」と言いました。

④



2人は来た道をもどり、村に帰りました。そして花粉の力でバケツは消え、村ではバケツが消えたよこびが起きました。村の人「バンザ〜イ！」そして村では平和がもどりました。めでたしめでたし。